

＃若者の本音

若者、女性のエンパワーメント
ワークショップ



函館市ジェンダーギャップ解消プロジェクト
若者、女性のエンパワーメントワークショップ

グループ発表要旨

(学生向けワークショップ)

日時：令和7年(2025年)9月6日(土) 10:00～12:30

場所：函館コミュニティプラザ Gスクエア

主催：函館市

開催概要

01 趣 旨

本市における若年層，特に20歳代の女性の転出超過が顕著であるという現状を踏まえ，若者や女性に選ばれるまちになるための課題に焦点を当て，学生自身が，「性別にかかわらず，自分らしく，希望するキャリアやライフスタイルを実現し，活躍できる函館」の未来像を描き，その実現に向けた具体的なアクションアイデアを提案し，若者の意見を施策に反映することで本市の持続的発展を目指す。

02 ワークショップの意義

■ 主体者としての若者の巻き込み

自ら問題を体感し，解決策を導くことで，当事者としてまちづくりへ参画するきっかけとなる。

■ 課題の可視化と共有

地域や学校などにおける性別による格差を，参加者自身の視点で深く理解し，言語化する機会となる。

■ 持続的な変革の種まき

若年層に気づきと行動力を与え，将来の意識変革や社会的なイニシアティブの創出につなげる。

03 日 時

令和7年(2025年)9月6日(土) 10:00～12:30

04 会 場

函館コミュニティプラザ Gスクエア 多目的ホール
(函館市本町24番1号 シエスタハコダテ4階)

05 テーマ

若者，女性のエンパワーメントワークショップ ～ #若者の本音 ～

06 参加者

- 市内の高等教育機関に在籍する学生：9名
 - 市内の高等学校に在籍する学生：2名
- 計11名

函館を首都級に！

01 最悪の未来 ～ジェンダーギャップが進行したまちの姿～

■ 負の連鎖

女性だけが仕事と育児を両立せざるを得ない状況が続くと、女性は幸福を感じられなくなり、結果的に一緒にいる男性も幸せになれない。このような状況が続けば、街から活気が失われ、最終的には人がいなくなってしまうという結末を迎える。

02 最高の未来 ～若者や女性に選ばれるまちの姿～

■ 安心して育て、安心して働けるまち

良いまちを作るためには、まず人口を増やすことが重要。人口が増えれば働く場所も増え、さらに人が集まり、暮らしやすい社会が実現する。例えば、一家庭への支援が手厚くなることで、子育てなどがしやすくなり、周囲の人々も幸せになれる。生活が充実してくると、働く場所だけでなく娯楽施設も増え、より豊かな生活を送れるようになるというのが最高の未来の姿である。

03 アクションアイデア

■ 職場環境の改善

企業や職場がジェンダーギャップに関する現状を把握していることを、SNSなどの情報発信を通じて、より身近に感じられるように伝えていくことが重要。

■ 家庭内の幸福とルール形成

家庭外で男女間の家事分担などのルールを明確に定めることで、家庭内の幸福度が向上し、より充実した生活を送れるようになる。実現性が高い。

■ 社会システムの変革

- 現在の函館市では、市内にいてだけでは何もできない状況であり、市外に出るかネットショッピングを利用するかのいずれも難しい状況
- 国などを巻き込み、物流を改善し、人々が商品に触れやすい環境を整備する
- 女性が社会でどのように活躍しているかを把握できる機会を創出することで、女性の立場がさらに向上する。
- 男女の出会いの機会を増やすことが最も重要
- 「肉食男性育成プログラム」により、草食系の男性が多い現状を変えることで、男女の出会いが期待される。

キラキラのまち函館

01 最悪の未来 ～ジェンダーギャップが進行したまちの姿～

■ 働けない、学べない

- 若者が学ぶ場・就職先が不足し市外へ流出し、地元に残れない
- 遊び場やイベントが少なく、街の活気が失われ人が減る
- 女性が出産・育児で仕事を続けられず、復帰も難しくなる
- 家事負担の偏りと長時間労働で、家庭の幸福度が低下する
- 保育・教育支援が不足し、学びたくても学べない人が増える

02 最高の未来 ～若者や女性に選ばれるまちの姿～

■ 若者が定着し、世代が繋がる

- 企業が連携して専門学校をつくり、地域が求める人材を育て、若者が学び・働き・定着できる環境を整える。
- 若者から子どもまで楽しめる場を増やし、世代を超えてにぎわう街をつくり、人口増につなげる。

■ 女性が活躍し、家庭が幸福な社会

- 出産・育児後も復帰しやすい制度や在宅勤務の拡大で、女性が働き続けられる環境をつくる。
- 家庭内で役割分担を話し合い、家事を平等にすることで家庭の幸福度を高める。

■ 豊かな学びと便利な生活

- 奨学金を充実させ、経済的理由で進学を諦めないようにする。
- 公共交通の便を増やし利便性を広め、車がなくても快適に生活できる環境を整える。

03 アクションアイデア

■ 若者の定着と人材育成の強化

- 企業が必要な人材像を共有し、地域で学び働ける仕組みをつくる
- 若者や住民が楽しめるイベントや遊び場を増やし、街の魅力を高める

■ 仕事と家庭の両立支援と協力促進

- 出産・育児後も復職しやすい制度を整え、在宅勤務を広げる
- 家事分担を家庭で話し合い、協力し合う体制をつくる

■ 教育機会の拡充と公共交通の改善

- 奨学金制度を拡充し、誰もが進学しやすい環境をつくる
- バス便の増加や利便性の発信で交通網を改善する

■ 市民一人ひとりの意識改革

- 節約や環境配慮など、日々の小さな行動を積み重ね、街づくりに貢献する

理想の函館像：つながり

01 最悪の未来 ～ジェンダーギャップが進行したまちの姿～

■ 育児と仕事の両立困難により少子化進行

- 家庭内での役割分担の不均衡が進行
- 女性が育児と仕事の両立ができなくなり、負担が増大する
- 育児の両立困難が少子化をさらに進行させる
- 少子化に加え、若い女性の地域からの転出が増加し悪循環が生じる

02 最高の未来 ～若者や女性に選ばれるまちの姿～

■ 子育ても仕事も、あきらめない社会へ

- 子育てと仕事が無理なく両立できるようになる
- 女性が社会の中で居場所を見つけ、性別に関係なく活躍できる環境が整う
- 家庭内に余裕が生まれ、より穏やかな生活が送れる
- 函館市自体が子どもたちにとって安心して過ごせる居場所となる
- ジェンダーギャップの解消が徐々に進み、社会全体に良い循環が生まれる
- ジェンダーギャップの解消が、少子高齢化といった子どもに関する問題の緩和につながる。

03 アクションアイデア

上記の最悪の未来を回避し、最高の未来を実現するための具体的なアクションとして、「つながり」がキーワードに挙げられた。

■ 相談機会の創出と情報提供

親同士が相談できる場や、困っている人が利用できる相談窓口の重要性が強調された。困っている人が「ちゃんと相談に行ける」仕組みづくりと、その情報提供が不可欠。

■ 多様な主体による連携

ジェンダーギャップの問題は、市だけ、民間だけ、地域だけでは解決できない問題であり、日本全体で問題視されている。解決のためには、いろいろな団体や個人が「つながりを持って」、問題意識を共有し、個々の状況を理解することが重要。

■ 世代間の交流の促進

アクションアイデアとして、さまざまな団体や個人が連携し、「世代間の交流」を積極的に行っていくことが提案されている。

■ 「みんな」による行動と総合的な視点

これらのアクションは、特定の個人や団体だけでなく、「みんながしていく」べきであるとされている。効果的な問題解決のためには、「総合的な視点」が不可欠であると結論付けられている。